

第 62 回 JIA アーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2010 年 2 月 24 日(水)

テーマ : 「混然とした都市に展開する、様々な手法による最新建築環境」

見学先 1. 「コーセー王子研修センター」 設計・監理 (日建設計)

説明者:小嶋 隆氏 (日建設計)

村田 朋子氏 (日建設計)

2. 「川本製作所 東京ビル」 設計・監理 (日建設計)

説明者:石原 直次氏 (日建設計)

和田 剛氏 (日建設計)

3. 「移動中 その他外観見学建物」

「北区立中央図書館」 (設計:佐藤総合計画)

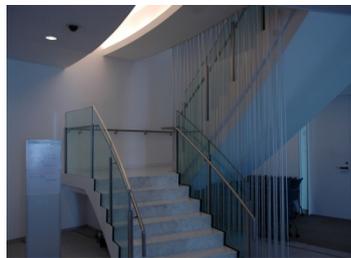
「東京書籍印刷(株)・工場・守衛所・事務棟」 (設計:西谷健吉・山本喜一)

「東京建設コンサルタント本社ビル」 (設計:清水建設)

「KK ベストセラーズ本社ビル」 (設計:山本良介)

第 62 回コーディネーター 近藤 昇 (近藤総合計画事務所)

「コーセー王子研修センター」



「東京書籍印刷(株)」

「東京建設コンサルタント本社ビル」 「KK ベストセラーズ本社ビル」



「川本製作所 東京ビル」



見学後記

東京都内のオフィス街と呼ばれている地域には、巨大なビル群があちらこちらと出現し衆目を集めておりますが、その一方で、その周りの地域を見ますと、混然とした地域が広がっている中にもしっかりとその建築自体を表現している、優れた建物が見受けられます。今回は混然とした地域における「建築内外環境」に焦点を当て、実際の空間を体現し設計者や関係者の説明を受け、どのような問題点があるのか、又具体的にどのような解決策を取り入れたのか、そして今後の可能性を探ることが出来ればと考えて開催しました。

第 62 回アーバントリップは、梅の花が満開の暖かい日差しに囲まれたれた 2 月 24 日に開催されました。今回は年 3 回開催される見学会の内、徒歩で回る半日見学会となり、移動手段として初めて都電を利用しました。見学施設は 2 施設で最初にコーセイ王子研修センター前に 34 名集合して 13:00 から見学が始まりました。設計を担当された日建設計の小嶋さん、村田さんに説明をお願いしました。テーマの通り、あまり良いとはいえない周りの環境の中、女性の利用率の高い研修センターとしてプライバシー確保や外部と遮断するような考えで、中に向けてのデザインを取り入れています。その上で外周部にプロフィリットガラスを使用して壁面の意識を薄れさせる建物でした。限られた予算の中で細かいところも担当者の村田さんが女性だと言う事を感じさせられました。

14:30 に見学終了後は A・B・C 3 コースに分かれて次の見学先へ都電を利用して移動しました。B コースは王子の東京書籍印刷を見学してから都電に乗り込み、大塚駅で東京建設コンサルタント本社、KK ベストセラーズ本社を見学しながら、川本製作所東京ビル前へ 16:00 に集合しました。東京書籍印刷は 1936 年の建物でありながら現役の印刷工場です。なかなか素晴らしいデザインでした。東京建設コンサルタント本社は今回の見学先候補でしたが日程の都合が付きませんでした。この建物は中間免震構造を持つ建物です。KK ベストセラーズ本社はカッパボックスの会社です。打ち放しと路地状のガラスアプローチが特徴でした。

16:00 からは、やはり日建設計の石原さんと和田さんに説明をお願いして見学を行いました。この建物は構造が面白くコア部分となる RC 造と外周部のビルト H 鋼フレームを PC 版床で結んで成り立たせています。構造そのものが表してデザインされおり非常に美しい建物です。また面積も 1000 m² に満たない建物を日建設計が担当すること自体が不思議に思えました。H 鋼フレームもスレンダーで耐火性能を持たせています。階高も低く天井を躯体そのままの表しとして、外部からもカーテンウォールを通して見ることが出来ますが、下から見上げられる為にボトムアップブラインドを採用していました。この敷地もテーマの通り周りの環境は決して良くありませんが外部に対してしっかりと主張をしている建物です。見学時間をわざわざ夕方遅くした理由は、外観の夜景を見たい為でしたが日が沈んだ後、ビルの明かりとフレームの影は見ごたえがありました。

今回の見学会では移動手段に都電を利用しましたが、24 日は鬼子母神、とげぬき地蔵の縁日と重なり、都電利用者が多くびっくりました。又、縁日の様子も都電から垣間見えて見学会とは別な楽しさを味わえました。このような見学会も良いものだと思います。歩きながら歩きました。

記：第 62 回アーバントリップコーディネーター 近藤 昇（近藤総合計画事務所）